# Crescendo

MEDIKIT ARTS CENTER くれっしぇんど

2021.2
vol.142

新型コロナウイルス感染症の影響で日常が様変わりした一年でした。劇場でもコンサートやお芝居、ワークショップなどを予定していましたが、あえなく中止になったイベントもたくさんありました。そのなかでも、形を変えながらさまざまな対策やチャレンジをしてイベントを行うことができました。今回は、劇場の一年間をご紹介します。

音楽祭

# 宮崎国際音楽祭特別公演
# 「オータム・クラシック2020」

毎年5月に宮崎の春を彩ってきた「宮崎国際音楽祭」。本当なら第25回の節目の年となるはずだった2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響から開催を見送ることとなりました。春から夏にかけて、全国的に様々な催しを中止せざるを得ない状況が続き、どうすれば安全な環境で公演できるのかを模索する中、お客様からいただいた「なんとか少しずつでも再開に踏み切って欲しい」というたくさんの声。そうした励ましに後押しをされて、2020年11月23日～29日の期間、「オータム・クラシック2020」と題した音楽祭の特別公演を開催しました。

50%の客席数で販売を行った3つのオーケストラ公演は、昼間の2つの演奏会が完売。夜間の1公演も満席に近い状態となり、苦しい状況が続く中でも、多くの方々が生の演奏に触れ、感動を共有する場を求められていたことが垣間見られました。
また、演奏家の皆さんは、PCR検査を始め、たくさんの制限を設けた環境の中での一週間の滞在でしたが、宮崎に集えたことを本当に喜ばれ、素晴らしい音楽を紡ぎ出してくださいました。
いつにも増した温かい拍手と渾身の演奏の中、2020年の11月は忘れられない記憶となりました。

## 「子どものための音楽会」
## 11月24日（火）11:00開演

毎年5月の音楽祭では、県内の小学6年生約3,000人をアイザックスターンホールに招いて開催している「子どものための音楽会」。今回は無観客での初のライブ配信（学校限定）を実施しました。誰もいない客席にもなんのその。オーケストラの面々の楽しく真剣な演奏に、きっと画面を通しても、音楽の醍醐味が伝わったのではないかと思います。そんな演奏会の司会を務めていただいたのは、首都圏を中心に活躍されているアナウンサーの竹平晃子さん。実は宮崎出身で小学生の時に、この「子どものための音楽会」に参加したことがきっかけで、「コンサートや音楽番組の司会を通じてクラシックの魅力を伝えたい」と、現在の仕事を志したということです。

竹平晃子さんコメント

初めて生のクラシックを聴いた「子どものための音楽会」に、20年後、今度は司会で戻って来られて本当に幸せでした。実は宮崎でのアナウンサーデビューでもあったのですが、指揮の広上先生、オーケストラやホールの皆さんの温かさに支えられ、無事に務めることができました。終演後に演奏者のお一人から、「音楽祭が長く続き、その時いてきた種が花を咲かせて嬉しい！」と有難いお言葉をいただきました。今度はホールで、子どもたちと会えることを楽しみに頑張ります♪

## Program 1
## 11/25（水）19:00開演
## ベートーヴェン賛歌Ⅰ ～『田園』・愛と喜びの風景 ～

生誕250年を迎えるベートーヴェン・メモリアル・プログラム。ベテラン、広上淳一の指揮のもとピアノに上原彩子を迎え、ピアノ協奏曲第5番『皇帝』、交響曲第6番『田園』をお届けしました。上原さんのダイナミックな演奏で聴く、華麗で威風堂々とした音楽はお客様を圧巻。後半の『田園』では、広上さんとオーケストラが創り出す会場を包み込む「自然」の響きに、最後には雲間から差し込む光に、空が晴れていくような感動が生まれました。アンコールには、「皆さんの生活の幸に音楽が必ずあることを心にとどめておいてほしい。」という広上さんの言葉とともに、大河ドラマ『麒麟がくる』のテーマを演奏。鳴り止まない拍手で幕を閉じました。

## Program 2
## 11/28（土）15:00開演
## ベートーヴェン賛歌Ⅱ ～ 第7番・神々のリズム ～

2つめのベートーヴェン・プログラムは、下野竜也（指揮）と三浦文彰（ヴァイオリン）の俊英二人組が『ヴァイオリン協奏曲』。そして、『交響曲第7番』をお届けしました。高い技術で丁寧に感情をコントロールしながら瑞々しく音楽を奏でる三浦さんの協奏曲は、息もぴったりのオーケストラとの共演に、終わらないカーテンコールとなりました。後半では、「第7番はロックの原型」と語る下野さんのタクトが生み出す、キメを外さないドライブ感溢れる演奏に会場は大きく盛り上がりました。そして、この日のアンコールは、もちろん大河ドラマ『真田丸』のテーマ。二人の姿に、多くのお客様が予想されていたのではないでしょうか。

## Program 3
## 11/29（日）15:00開演
## 「ポップス・オーケストラ in みやざき」 My Best Song ～ 忘れられない曲をオーケストラで

オータム・クラシックのフィナーレとなった公演は、県内の皆様からお寄せいただいた、忘れられない一曲を宮崎国際音楽祭管弦楽団が奏でるという、音楽祭初の贅沢な企画。朗読に女優の石田ひかりさんを迎え、ベートーヴェンの『運命』に始まり、日本の唱歌や映画音楽、さらに演歌に小田和正の楽曲まで、なんと13曲を皆様の想い出とともにお届けしました。

巻頭コラム

## 横好きのゴルフとクラシック

街に出るな、人に会うな、旅をするな…何とも味気ないコロナ暮らしがもう1年になります。これだけヒマな時間が増えたのに何をすればいいのか悩ましい日々の中で、わずかな光明が「横好き」です。もちろん下手の横好きの意味ですが、辞書には、上手でもないのに「むやみに好きなこと」とあります。

30歳過ぎから始めたゴルフ、もう40年になります。3密を避け清浄な空気のもとでのプレーですからコロナ自粛下でもあまり不安に駆られずに過ごせます。しかし腕の方はライオンに近くなりました。「百獣の王」つまりスコアが110に限りなく近づきました。ゴルフは年を取ってからも上達できる数少ないスポーツとよく言われますが、私の場合、これは嘘ですね（笑）。

長いつきあいで時々コーチしてくれる達人に近いゴルフ好きの友人が…「筋がいいね、見込みあるよ」と昔は優しい忠告だったのですが、最近は厳しくなって「鈍い」「向上心がない」とほとんど人格否定に近いことを言います。うるさい！たかがゴルフでそこまで言われることはないと内心むかつきながら、この1年は、横好きのゴルフがあって良かったなと思っています。（もちろん緊急事態の宣言中は自粛していますが…）

もう一つの横好きは音楽です。若い頃から音楽は好きで、フォークソング、ジャズ、ロック、歌謡曲（ちあきなおみが大好きです）といったレコードやCDが昔懐かしの気分をくすぐり、コロナ下の無聊を慰めてくれます。しかし最近の圧巻はクラシック音楽です。7年前に劇場に来て以来、随分たくさんのナマの演奏やCDを聴くようになりました。ところがかつて馴染んだ音楽に較べてどの曲も長い！「誰も寝てはならない」と言われても、最初の頃は退屈で「ああ、私は間違った仕事を選んでしまったのか…」少々後悔もしたのですが。

一つの曲を繰り返し聴いているうちに、ジワリと響いてくるものを感じだしたのが3～4年前からでしょうか。コロナ下のこの1年はむしろその長さを嬉しく思っています。何しろ聴く時間がたっぷりできたのですから。これもある友人からの受け売りですが、世阿弥に「老後の初心忘るるべからず」という言葉があります。老後には老後にふさわしい芸を学ぶ初心がある、それを忘れずに限りない向上を目指せという意味の様です。まあ向上があるかどうかはともかく、70歳近くになってから始めた「横好きのクラシック」にしばらくはどっぷり浸かってみようと思っています。

公益財団法人宮崎県立芸術劇場
理事長　佐藤寿美

巻頭コラムは今号にてひと休みし、新シリーズ「hello! けんげき」をスタートします！第1弾を裏表紙に掲載しておりますのでどうぞお楽しみください♪

# 演劇

## 2020～2021シーズンテーマ
## ［演劇・ダンス］「たまには、ちょっと休む」

演劇・ダンス事業では、演劇やダンスの公演のほか、県民参加の作品創作やワークショップ・講座など、毎年様々な企画を行っています。今年度は中止を余儀なくされた公演もありましたが、このコロナ禍をきっかけに、講座のオンライン化などにも挑戦することができました。

「新 かぼちゃといもがら物語」#5

## 『神舞の庭』

作：長田育恵　　演出：立山ひろみ
出演：大沢健、東風万智子、貴島豪、日高啓介、平佐喜子、成合朱美、森川松洋、高野桂子、石倉来輝、原田千賀子

**あらすじ**

宮崎の山間にある集落で、代々その地区の神楽を受け継いできた中崎家。祭りの前日、実家で暮らす次男・亮二夫婦のもとに、東京在住の長男・俊一が、突然妻子を連れて帰って来る。同日、老母・登志子が倒れて昏睡状態になってしまい…。混乱の中、中崎家の人々が抱える悩みが次第に明らかになっていく。

■宮崎公演 2020年10月23日(金)～25日(日)
■延岡公演 2020年10月31日(土)・11月1日(日)
■東京公演 2020年12月11日(金)～13日(日) ※公演中止

© 黒木朋子

宮崎県立芸術劇場がプロデュースする、宮崎の“今”を生きる人々を描く演劇シリーズ「新　かぼちゃといもがら物語」。5作目となる今年度は、シリーズ2作目で上演し好評を博した『神舞の庭』を、当劇場演劇ディレクター・立山ひろみの新演出でお届けしました。

6月、まずはチラシのビジュアル撮影が行われました。当日はあいにくの雨でしたが、撮影の時間帯は奇跡的に降ったり止んだりの小雨に！どこかしっとりとした、山間の草木の気配が感じられるビジュアルに仕上がりました。

稽古は9月下旬にスタート。『神舞の庭』は神楽舞や身体表現に加え、台詞も宮崎弁と要素が多い作品です。芝居の稽古前に神楽舞や身体表現の稽古を行い、合間には方言の指導が入るなど、稽古漬けの日々。その中で皆さんの楽しみは、やっぱり宮崎の“食”！休憩中には、宮崎の美味しい食べ物やお店などの話で盛り上がる一場面も♪また、俳優の皆さんは約1ヶ月間宮崎で生活しながらの作品創作。作品の舞台となったモデル地域を視察したり、オフの日には県内各地を巡ったりと、出先で宮崎の人と触れあいながら、作品づくりに活かしていました。

そして10月下旬に迎えた宮崎公演と延岡公演。クライマックスが近づくにつれ、客席からはお客様のすすり泣くような様子も。終演後には惜しみない拍手が舞台に届けられ、温かい余韻に包まれながら、その幕を下ろしました。

© 黒木朋子

▲ 実際にできあがったチラシ

## ニグリノーダ『赤桃』
### 「みんなでおどってみよう！『のびるのうた』」動画配信

『赤桃』は2016年から毎年上演している、0歳から参加できる演劇公演です。誰もが知っている「赤ずきん」と「桃太郎」をもとにした、小さなお子さんも大人も一緒に楽しめる“しかけ”がもりだくさんの作品です。

6月下旬の公演が中止となり、それなら“おうち”で楽しんでもらおうと動画配信を企画。現在YouTubeで劇中の「のびるのうた」というおどりを、不思議な歌と音楽に合わせて紹介しています。ぜひ、おうちでおどってみませんか？

過去の公演（2019年）

動画はこちらからご覧ください♪

## トライアル・ツアター 2020

原作：夏目漱石『夢十夜』　　音楽：坂元陽太
構成・振付・演出：川合ロン　　ワークショップ参加者：7名

▶坂元陽太

▲川合ロン

舞台芸術界のトップランナーを招き、オーディションで選出された参加者と約1週間で作品を創作、上演するシリーズ。5年目の今年も、5月にオーディション、8月に公演を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため見送りに。“特別版”として全11日間のワークショップに内容を変更し、11月にようやくスタートしました。

「テキスト×身体表現×音楽」をテーマにした今回は、東京を拠点に国内外の振付家等と創作を行うダンサーの川合ロン、さらに宮崎を拠点に活躍するジャズベーシストの坂元陽太を迎え、宮崎や福岡からの参加者7名と作品づくりに取り組むという、ここ“宮崎でしかできない”挑戦になりました。

残念ながら1月のショーイング（成果発表）は中止となってしまいましたが、ワークショップの内容は“超”がつくほど濃密！夏目漱石『夢十夜』を題材に、“見える”身体で“見えない”夢を表現するにはどうしたらいいんだろう？そんなことを探りながら、毎回、動いて、動いて、ひたすら動き続け…とにかく運動量がすごい！参加者同士でアイデアを出し合って創作する場面もあるなど、参加者それぞれの個性が光る内容となりました。

## こどももおとなも劇場 #5

**劇団東京乾電池『卵の中の白雪姫』**
2021年1月16日(土)・17日(日) ※公演中止

世界の名作物語を舞台芸術作品にしてお届けするシリーズの第5弾として予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のためやむなく中止に。一般公演のほか、県内の小・中学校を対象とした鑑賞教室や学校出張ワークショップも予定していました。

## アートな学び舎 2020

ラインナップ等の詳細はこちら！

舞台芸術をより気軽に体験したり学んでいただくために、全7種類のワークショップや講座を開催。講師と会場をオンラインでつないだり、全員がオンラインで参加するなど、劇場に来ることが難しくても参加できる方法も模索しました。演劇やダンスのほか、演出や照明、音響といったスタッフの仕事も取り上げています。

▲ディレクター・カフェ

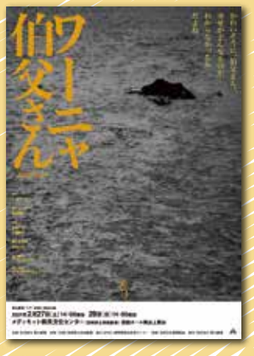
▲一行さんのおどる・ワークショップ

▲ぶっちゃけ演出論

第七劇場
**『ワーニャ伯父さん』**（共催）
2021年2月27日(土)・28日(日)

三重県を拠点に活動する劇団「第七劇場」の公演です。上演するのは、ロシアの劇作家・チェーホフの四大戯曲のひとつ。

本公演の演出、鳴海康平さんは「トライアル・シアター2018」で構成・演出を務めています。満を持して、自身が代表を務める劇団で再登場です！




'20みやざきの舞台芸術シリーズⅣ
どらまさるく企画
**『バリカンとダイヤ』**
2021年3月13日(土)・14日(日)

宮崎にゆかりのある方の公演企画を応援するシリーズ「みやざきの舞台芸術」の第4弾。宮崎県出身の劇作家・中島淳彦さんの戯曲を、宮崎在住の11人の俳優（なんと全員女性！）が演じます。公演は3月で、チケットは好評発売中！詳細は本誌裏面をご覧ください。

# 音楽

この1年を振り返ると、開催することができた公演、開催できなかった公演、
開催できなかったけれど形を変えて行った公演とさまざまでした。
ここでは、音楽公演関連の1年を振り返ります。

**開催日** 令和2年 6月27日・9月26日

## パイプオルガン プロムナード・コンサート「オルブラ」

新型コロナウイルスの影響で、今年度初の自主事業公演となった6月公演では、客席を100席に限定し、消毒や検温など感染防止対策を行い開催しました。初の試みに課題や改善点もみつかりましたが、鑑賞を楽しまれているお客様の姿を久しぶりに拝見することができ、印象深い公演となりました。毎回オルガニストの個性が光る選曲による演奏を、わかりやすい解説とともにお届けしていますが、次回の3月公演では、幸せへの祈り、平和への祈り、誰かを想う祈りなど、さまざまな“祈り”と結びつきのある音楽が、ホールいっぱいに降り注ぎます。ぜひお楽しみに。

**次回** (vol.167)：3月6日(土)開催予定
オルガニスト：福冨由加里　司会：伊豆謡子

**開催日** 令和2年 7月18日 中止

## おんがくのおもちゃ箱シリーズPart.11

夏に予定していた公演が中止となり、“それなら”と動画配信に切り替え。せっかくなので、映像ならではの表現や、通常の公演では出来ないことをやってみよう！と、劇場を飛び出し、おもちゃの楽器、スタジオでの録音、海岸や森でのロケ、ドローンによる空中撮影など、思いっきり楽しく遊んでみました♪…だって、「おもちゃ箱」ですから！

宮崎県立芸術劇場
YouTubeチャンネル
こちらにアクセス！

**開催日** 令和2年 7月25日

## Let’s和の音♪「邦楽いろはコンサート」

体験型ワークショップとして5年間実施してきた「Let’s和の音♪」。新型コロナウイルスの感染予防策として、レクチャーコンサートという新たなカタチをとりました。コンサートの後半は、災いを払い、家内安全や健康を祈る「祝福芸」として、「こんな苦しいよ（世）はさ（去）れ」が語源といわれる「津軽よされ節」や、宮崎替え歌バージョンの「南部俵積み唄」を披露。客席から久々にお客様の活気を感じた公演でした。一時は中止も頭をよぎりましたが、出演者もスタッフも全員でアイデアを出し合い、開催に向けて一緒に舞台を作れたことが、今後このような状況下でも公演を開催していく自信につながりました。

**開催日** 宮崎 令和2年 9月12日　小林 令和2年 9月13日

## シリーズ<なるほどクラシックコンサート>vol.9『ベートーヴェンからブラームスへ』

シリーズのラストを飾ったのは、生誕250周年のベートーヴェンと、それを受け継ぐブラームス、クラシックの本流と言える大作曲家2人の王道プログラム。会場には、これまでのシリーズを振り返るパネル展示も。盛況のうちに幕を閉じた最終の小林公演まで、とても感慨深い3公演でした。

**開催日** 令和2年 11月22日

## 国文祭・芸文祭みやざき2020 さきがけプログラム ヒカリトカゲノシンワ

影絵師の川村亘平斎さんと音楽家の宮内康乃さん、そして県内から集まった13名の参加者のみなさんとで、宮崎の民話をベースに創った影絵と音楽の公演。影絵は初めての方がほとんどで、趣向を凝らして作ったご先祖様の人形を、四苦八苦しながら楽しそうに動かす姿が作品に”いい味”を出していました。たまたま事前に選んでいた民話が、後日参加者のご先祖様と深いつながりがあることが分かったという小話も。伝説がいまの自分たちにつながる話として、ぐっと近くに感じた瞬間でした。

川村亘平斎（影絵師）さんからのメッセージ

市民参加の皆さんと作り上げた影絵芝居は、2020年の貴重な思い出です。影絵を媒介に演者と観客が一体になる、オンラインでは超えられない体験の共有。素晴らしい時間でした。宮崎は神話の宝庫。皆さんと作りたい物語がまだまだたくさん眠っています。またお会いできる日を楽しみにしております。

**開催日** 令和2年 12月13日

## 歌劇「400歳のカストラート」

宮崎出身の藤木さんを始め宮崎に縁の深い出演者たちや、本格的なオペラに精通したスタッフたちが集結して創り上げた、珠玉のオリジナル・オペラ。コロナ“第3波”が押し寄せる中、万全の対策をとって開催した公演は、県外にも大きな評判を呼びました。

藤木大地さんからメッセージ

家族のような『400歳のカストラート』カンパニーと故郷・宮崎で過ごした3日間を、仲間の誰もが忘れないでしょう。
生の音楽と舞台を渇望する空間を包んだあたたかな拍手は、どんな言葉よりも雄弁でした。これが劇場だ！劇場は負けない。

**開催日** 令和2年 2月6日～ 計16公演

## アウトリーチ「ミュージック・シェアリング」

コンサートへ行く機会や音楽に触れる機会の少ない方々に、生の音楽をお届けするための訪問コンサート「ミュージック・シェアリング」。今年度は新型コロナウイルスの影響により中止となったコンサートもありましたが、「こういう時だからこそ音楽を聴かせてほしい」という声もいただき、いつも以上に開催先と連携し対策をとっての開催となりました。延期となった第5期生の卒業コンサート「Miyazakiアウトリーチアーティスツ・エキシビション＃5」は2021年5月22日（土）に振替公演が決定！お楽しみに。

**開催日** ＃5 4月21日中止　＃6 12月23日〈延期開催〉　＃7 10月21日
＃8 1月20日中止　西都公演 11月14日

## はじめてのクラシック♪

小さなお子様と一緒にリラックスして楽しめるクラシックコンサート！本年度は、新型コロナウイルスにより開催中止や延期を余儀なくされましたが、無事に開催出来た公演では、クラリネットやフルートの音色、そして歌声を子ども達だけでなく、ママパパにも楽しんでいただきました。

**次回** 4月21日（水）開催予定
フルート：壽山智美　ピアノ：日髙裕美

# メディキット県民文化センター（宮崎県立芸術劇場）　自主事業公演チケット情報

テレビ宮崎開局50周年記念

## 佐渡裕／反田恭平 with ジャパン・ナショナル・オーケストラ 特別編成

**3月12日（金）** 開演18:30（開場17:30）　アイザックスターンホール

各地で名演を残してきた佐渡裕と反田恭平。反田自身が編成したオーケストラとともに唯一無二の演奏をお届けします。

© S.Ohsugi　© Takashi Iijima

**3月12日（金）**
開場17:30　開演18:30
アイザックスターンホール

（佐渡裕指揮トーンキュンストラー管弦楽団から変更になりました）　チケット発売中

テレビ宮崎開局50周年記念
**佐渡裕／反田恭平**
**with ジャパン・ナショナル・オーケストラ 特別編成**
【出演】佐渡裕（指揮）反田恭平（ピアノ）
ジャパン・ナショナル・オーケストラ 特別編成
全席指定　S席8,000円（7,200円）A席7,000円（6,300円）
B席6,000円（5,400円）B席学割（100席限定）3,000円

**3月13日（土）**
開場18:30　開演19:00
**3月14日（日）**
開場10:30　開演11:00
開場15:30　開演16:00
イベントホール

'20みやざきの舞台芸術シリーズⅣ　チケット発売中
**『バリカンとダイヤ』**
【作】中島淳彦【演出】黒木朋子
【出演】成合朱美、中野弥生、吉丸裕美、田原光、川越琴葉、まなべゆみ、大江泰子、前田晶子、神水流じん子、蛯原直美、景山益美
全席自由（日時指定）　一般2,500円　U25割1,500円

**3月28日（日）**
開場13:15　開演14:00
演劇ホール

第14回ミュージック・アカデミー inみやざき2021 ファイナル・コンサート　チケット発売中
**室内楽の花束**
【出演】徳永二男（ヴァイオリン）、漆原朝子（ヴァイオリン）、川﨑雅夫（ヴァイオリン・ヴィオラ）、毛利伯郎（チェロ）、三上桂子（ピアノ）、横山幸雄（ピアノ）
全席自由　一般2,000円（1,800円）U25割1,000円
親子割2,500円（小・中学生＋一般）

'20みやざきの舞台芸術シリーズⅣ
どらまさるく企画
**『バリカンとダイヤ』**
**3月13日（土）** 開場18:30／開演19:00
**3月14日（日）** 開場10:30／開演11:00　開場15:30／開演16:00
**イベントホール**
日南の海をこよなく愛した劇作家・中島淳彦のおかしくも愛すべき女たちの物語
【作】中島淳彦　【演出】黒木朋子

**Attention（ご注意）**
◎記載情報は変更になる場合があります。　◎（　　）内はくれっしぇんど倶楽部会員価格です。　◎U25割は鑑賞時25歳以下が対象。その他の割引サービスの詳細は、劇場HPをご覧ください。　◎当日券が出る場合は、一般チケットのみ500円増になります。※一部公演除く　◎託児サービス（有料・事前申込要）がご利用いただけます。※一部公演除く

---

劇場にゆかりのある方のコラム・メッセージを紹介する新シリーズスタート！記念すべき第1弾は、劇場の大ファンという坂本由起子さんです。

## hello! けんげき vol.1 坂本 由起子さん

### 「私が最前列に座る理由（ワケ）」

県劇に通い始めて早や26年目となりますが、常連さんから「今日も一番前なのね」と言われるほどの最前列愛好家です。もちろんオーケストラには見えない楽器も多いですし、オペラでは指揮者の背中やソリストの譜面台で字幕が隠れるという難点もあります。それでもこの席には数多くの魅力があるのです。

古くから伝わる歌舞伎には、演出に本物の水や泥、油を使う演目があります。そのため当時から前方の客席には跳ね返りで汚れないように被り物が置かれていたとのこと。これは「かぶりつき」の語源のひとつなのでしょう。私も被り付き席で水を使う演目を観たことがありますが、役者の大立ち回りを見ながら水しぶきを浴びるのは無類の幸せ。これぞ前方客にのみ与えられた特権です。

音楽にもこの席だからこそ味わえる贅沢感があります。メロディを奏でるピアニストの息づかいはもちろん、鍵盤を疾走する指の残像には目を奪われます。また声楽家の声量を肌で感じられるのも贅の極み。更にオーケストラから放たれる音圧は肚の底まで届き、圧倒的な臨場感を味わえます。しかし衝撃の出来事も…第1回音楽祭では演奏中にスターンさんのヴァイオリンの弦が切れ、曲と時が止まったのです。初めて見る眼前の光景に思わず息を呑んでしまいました。

遠からず座席が本来の配列に戻る日が訪れるでしょう。その際はぜひ最前列で舞台の息吹を堪能されてはいかがでしょうか。お隣でご一緒できる日を心待ちにしています。

---

劇場の未来をつくる

## なかで働く人

スタッフ紹介vol.1

劇場に行くとよく見かけるスタッフ。中の人ってどんな人がいるの？どんな仕事をしているの？シリーズで劇場のスタッフをご紹介していきます！

名前　みやざき
部署　施設サービス係
出身地　長崎県
趣味　コントラバス演奏

趣味は
大学から始めたコントラバスの演奏
現在も続けている

### お仕事の内容は？

施設の貸出を担当しています。貸出方法や各練習室・ホールの案内、予約・精算など利用の全般を対応します。イベント時にはコーディネート業務のほか、落とし物の管理など窓口のさまざまな業務を行っています。

▼当時の写真を入手！

仕事が休みの日は劇場の
練習室を借りて練習に打ち込む

### みなさまへメッセージ

私も楽器演奏のために練習室やホールを利用しているので、お客様の目線に立ってのご案内を心がけています。お困りのことがあれば何でもおまかせください♪

仕事の必需品
コーヒーを入れたミニボトル
仕事の合間に飲んで
ほっと一息

お問合せ　公益財団法人 宮崎県立芸術劇場 MIYAZAKI PREFECTURAL ARTS CENTER
〒880-8557 宮崎市船塚3-210
http://www.miyazaki-ac.jp/
TEL.0985-28-3208　FAX.0985-20-6670
Twitterとfacebook随時更新中！「フォロー」と「いいね！」お待ちしています。

企画・制作・発行／公益財団法人宮崎県立芸術劇場　宮崎県宮崎市船塚3-210 TEL0985・28・3208
印刷・製本／藤屋印刷株式会社　宮崎県宮崎市橘通西1-4-14 加田屋ビル2F TEL0985・32・5380